

# 雲南病院だより



## 新年のご挨拶



病院事業管理者

まつ井

譲

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、ご家族お揃いで新年をお迎えになられた事と、お慶び申し上げます。さて、本年は当院の大きな課題であります新棟建設に向けての重要な年であります。昨年、市政懇談会やパブリックコメントなどにおきまして、市民の皆様から多数のご意見を頂戴いたしました。待ち時間について、医師確保についてなどの病院の取組むべき課題をいただく一方で、病院建設につきましては、待望、応援するご意見を多数いただきましたこと、この十数年、老朽化した建物を早く何とかしたい、時代に適応した療養環境を患者様に提供したい立場にある者として、大変ありがたく感謝申し上げます。いただきます。また病院建設検討委員会での

ご提言を基に病院建設基本構想を策定いたしました。この基本構想にもとづいて、本年より基本設計を行い、平成27年度着工、平成28年度には新棟が完成できるよう進めて参りたく、一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。地域医療は依然として厳しい状況ではありますが、24年度におきましては6月に皮膚科の常勤体制が、10月には眼科の常勤体制が、12月より週一回（木曜日）ではあります。がリウマチ・膠原病の専門外来の体制が図れました。また医師の充足する状況ではありませんが市民のみなさまの健康を守るため、職員一同更なる努力をして参りますので、一層のご支援をお願い申し上げます。といたします。

## 展示コーナーのご紹介

展示者：大東明寿会





市立病院院長

おたに じゅん  
大谷 順

新年明けましておめでとう  
ございます。本年が市民の皆  
様にとって佳い一年となりま  
すよう、心よりお祈り申し上  
げます。当院は市立化をして  
からこの4月で2年が経過致  
しますが、この間、病院の収  
支はほぼ予定通り推移してお  
りますこと、ひとえに市民の  
皆様のお力添えの賜と、心よ  
り御礼を申し上げます。

さて、地域医療の危機が叫  
ばれてから、随分年月が経ち  
ました。当院を含めた雲南二  
次医療圏もその渦中に入り、  
なかなか脱することができま  
せん。「明けない夜はない」  
などと自分を励まし努力をし  
ておりますが、まだまだ努力  
が足りないようです。新年を  
迎えるにあたり、地域医療の  
将来にとって希望のもてるお  
話をしてみたいと思います。  
前段で悲観的なことを述べま  
したが、地域医療を取り巻く  
環境は数年前に比べると、確  
実に良くなっているのも事実  
です。地域医療には三つの壁  
があると言われますが、その  
三つの壁を私たちは乗り越え  
つつあるかもしれないのです。  
三つの壁とは「物理的な壁」、  
「心の壁」、「制度の壁」です。  
「物理的な壁」は、中山間地

ゆえの医療機関へのアクセス  
の悪さです。とくに一刻を争  
う急病者にとって大きな障壁  
でしたが、ご存じのドクター  
ヘリ事業により大幅に改善さ  
れました。また、「心の壁」  
は住民側と医療者側間の齟齬  
であります。住民側からは  
「医師の診療態度が悪い」「治  
療内容に不満」といった怨嗟  
の声を聞く一方で、医療側か  
らは「コンビニ受診」や「モ  
ンスター患者」という言葉が  
囁かれ、相互理解の不十分さ  
も一因かと思われれますが、こ  
れに対して、当地域では早く  
から住民の皆様が病院の実情  
をご理解頂いて、講演会やシ  
ンポジウム等様々な支援活動  
を行って頂いております。そ  
のため、他所に比べて相互理  
解は進んでいるのではないかと  
思います。実際、県内他地  
域からも当地域での支援活動  
の視察に来られ、高い評価を  
受けております。わが雲南の  
誇るべき地域性であると感謝  
致しております。そして最後  
が「制度の壁」です。平成17

年の「卒後臨床研修制度」で  
地域から医師が、平成19年の  
診療報酬改定による「患者対  
看護師配置基準7対1」の設  
定により地域から看護師が減っ

ていき、もはや自助努力だけ  
では大刀打ち出来ないところ  
にまで来てしまっている感が  
あります。新政権には是非、  
地域医療に益する施策を打ち  
出して頂きたいものです。

幸い当県では、島根県医療  
政策課のご尽力で、医師・看  
護師確保にもわずかながら光  
が見えて参りました。とくに  
医師については平成18年度か  
らの地域枠推薦制度により当  
雲南地域から島根大学医学部  
に入学した医学生が今後毎年  
のように卒業して参ります。  
今後医師不足へのカンフル剤  
となることが期待される一方、  
残念ながらこの推薦制度に強  
力な拘束力がないため、卒後  
彼らが当地域での勤務を選ぶ  
かどうかは、病院を含めた地  
域の「アピール力」が決め手  
になると思っています。この  
様に不利な制度下や地理条件  
等に置かれながらも、状況は  
少しずつ改善してきておりま  
す。地域医療がこれからの地  
域を支えていく大きな柱であ  
ることに疑う余地はありません。  
私たち病院職員は、その  
気持ちを胸に地域医療を守り、  
育てて参ります。良質な医療  
を提供するのはもちろんです  
が、新病院建設に向け、また  
将来を担う医療職確保に向け  
て本年も奮励努力をして参る  
所存でございますので、どう  
ぞよろしくお願い申し上げます。

## 院内サロンふれ愛

1・2月の開催日：

1月11日(金)・25日(金)

2月 8日(金)・22日(金)

時 間：午後1時30分から3時30分

場 所：雲南市立病院 南棟2階  
ドック検診室

お気軽にお越しください。

問い合わせ先：

健康管理センター保健推進課

☎0854-43-3602

## お知らせ

### 年末年始の診療体制

年末年始の外来診  
療は、12月29日  
から1月3日まで休  
診とさせていただきます。なお、救急外  
来は通常どおり診療  
を行います。ご協力  
よろしくお願いいたします。



# 雲南市立病院建設検討委員会報告

平成24年度に雲南市立病院建設基本構想を策定するにあたり、外部有識者の方からご意見・ご提言をいただくため、医療・介護の関係者、行政関係者、住民代表ら十名で構成いたします雲南市立病院建設検討委員会を設置しました。

初会合を5月31日に開催し、松井讓病院事業管理者より、委員の皆様へ委嘱状を交付し、委員会の委員長に島根大学医学部の熊倉俊一教授、副委員長に雲南医師会の西村昌幸会長が委員の互選により選任されました。



▲熊倉 俊一 島根大学医学部教授

主催者を代表して、松井管理者は、冒頭、委員会の委員をお引き受けいただいたことにお礼を申し上げ、病院改築に至った経緯を説明しました。そして、いち早く新棟を建築して、時代に即した療養環境を患者様へ提供し、地域に役立つ病院づくりをめざすことを述べました。

県代表挨拶として、中川正久島根県参与・病院事業管理者は、今後とも県として全面的な協力・応援をすること、また、雲南圏域の中核病院として、その役割を担い地域医療が確保されていることに感謝するとともに、自治体病院は、行政と一体になり運営をすることが基本であると述べられました。

委員長就任の挨拶として、熊倉俊一島根大学医学部教授は、昨今の地域の医療機関を取り巻く情勢は厳しい状況にあるが、地域住民の安心で、すこやかな福祉社会を実現するためには、課題解決に向けて迅速に取り組む必要があること、新病棟、新病院の未来構想を市民の皆様にも明らかにし、市民の皆様の声を反映し、将来の雲南市のフロンティアを切り開く新しい病院づくりが実現できるよう取り組む必要があるとの考えを述べられました。

## 第1回委員会

### 1、日時

平成24年5月31日

15時～17時半

### 2、場所

雲南市立病院 大会議室

### 3、出席者

委員側 10名

病院側 13名

### 4、議題

- ①委員会スケジュール
- ②建替えにいたる経緯
- ③建設場所について
- ④基本構想（案）の提示
- ⑤意見交換

施設の老朽化と療養環境改善のために建替えを決意したこと、そして現地での改築を選択した経緯を説明し、本題である基本構想（案）についてご提示いたしました。

説明を受けた委員の方からは、基本構想（案）について、概ね評価するとのことご意見をいただきましたが、主に次のご意見をいただきました。

- 1、駐車場の確保について
- 2、救急搬送の動線とヘリポートの考え方

- 3、しまね医療情報ネットワークによる医療連携構築
- 4、市立病院へのアクセス
- 5、介護との連携
- 6、医師の確保

最後に、熊倉委員長より「本日の委員会では、ご意見をいただいた事項を踏まえ、次回の委員会で審議を深化していきたい」と述べられ、本委員会をまとめいただきました。



▲第2回委員会の様子



● 第2回委員会

1、日時

平成24年8月23日  
15時～17時半

2、場所

雲南市立病院 大会議室

3、出席者

委員側 10名  
病院側 13名

4、議題

- ① ステップアッププラン最終報告
- ② 市政懇談会の報告
- ③ 基本構想(案)に対する委員からの意見、提案に対する回答
- ④ 意見交換

第1回委員会で委員の方からいただいたご意見に対して、病院側から回答と基本構想への対応について説明をいたしました。  
ご意見をいただいた中で、①駐車場の確保、②救急搬送の動線、③ヘリポートの考え方、④医療情報ネットワークの構築については、基本構想へ盛り込むことを説明しました。  
前述の4つの項目について、基本構想へ盛り込むことを委員会にて了承をいただくとともに、盛り込む内容の素案を病院側より提示いたしました。

素案について、委員の方から表記する文言等について、ご意見をいただきました。  
最後に、熊倉委員長より、「委員の方からいただいた意見を、次回委員会までに整理され、ご提示をいただきたい。本委員会としても、本当に良い病院ができるよう協力をさせていたいただきたい」と述べられ、本委員会をまとめていただきました。

● 第3回委員会

1、日時

平成24年10月25日  
木曜日 15時～17時

2、場所

雲南市立病院 大会議室

3、出席者

委員側 8名  
病院側 13名

4、議題

- ① パブリック・コメントの実施報告
- ② 基本構想最終案の提示
- ③ 意見交換

第2回委員会で委員の方からいただいたご意見を踏まえ、病院側から基本構想最終案を提示いたしました。  
最終案について、各委員の皆様からご了承をいただくとともに、病院

建設に向けて、激励のお言葉をいただきました。  
最後に、熊倉委員長より委員会としての最終総括を左記のとおりいただきました。

● 建設検討委員会委員長最終総括

本基本構想の中で核となるのは新病棟の建設、それに伴います病院の運営についてでした。  
患者さまや家族のプライバシーに

配慮するための個室の充実、療養環境の向上、雲南市の気候を踏まえまし  
た明るく風通しのよい環境の整備、或いは地域の  
中核病院としての機能を  
発揮すべき各種診療科の  
配置と診療体制の充実、  
そして将来の医療を担う  
医療人育成体制の構築、  
ハード面ソフト面を含め  
て広範な領域にわたる改  
革が策定されています。  
また、経営や運営面にお  
いても、地域の医療機  
関や介護施設等、或いは  
三次医療機関との有機的  
な連携体制の構築や健全  
な病院経営の実行、確実  
性の高い返済計画の策定

等、充実かつ安全な様々な方針が策定されたと思います。

本委員会としましては、3回にわたる審議の結果、本日、建設基本構想最終案を承認し、これをもって本委員会を終了とします。

今後はこの基本構想最終案を基盤に、雲南市の未来を開く、新しい病院づくりに精力的に取り組まれ、地域住民の安心安全な暮らしをしっかりと守って、地域医療の充実に大いに寄与するすばらしい病院に発展することを、こころより祈念申し上げ委員会の総括といたします。

雲南市立病院建設検討委員会委員

委員長	くま 熊 倉 俊 一 (島根大学医学部教授)
副委員長	にし 西 村 昌 幸 (雲南医師会長)
委員	なか 中 川 正 久 (島根県参与、島根県病院事業管理者)
委員	ふく 福 澤 陽 一郎 (雲南保健所長)
委員	かげ 影 山 文 明 (雲南広域連合副管理者)
委員	やま 山 本 重 美 (雲南市社会福祉協議会常務理事)
委員	にし 錦 織 美 由 起 (社会福祉法人よしだ福祉会施設長)
委員	ふな 舟 木 清 宏 (雲南市地域自主組織連絡協議会代表)
委員	や 矢 壁 敏 宏 (市民の会、病院ボランティアの会代表)
委員	なが 永 井 まゆみ (雲南市教育委員会教育委員)